

地方が直面する様々に問題に、真っ向から立ち向かおうとする小さな町の挑戦——  
5カ年計画の後半期を迎えた「美波ふるさと総合戦略」は、今や地方創生のホットワード「美波町モデル」として全国から注目を集めるようになりました。

ひとりひとりが自分事として、住民総参加で進めることを提唱した「美波ふるさと総合戦略」の取り組み、美波町ならではの地方創生を紹介していきます。

## 「ミナマリラボ」がオープン！

昭和45年以来「水産試験場」と呼ばれ、親しまれてきた徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課美波庁舎。こちらの本館3階に美波町が運営するコワーキングスペース「ミナマリラボ」がオープンしました。

### ■コワーキングスペースとは？

「コワーキング(Coworking)」とは「共に、一緒に(co-)働く(working)」という意味の造語。アメリカ・シリコンバレーの近く、IT企業ひしめくサンフランシスコから世界に広まった新しい働き方の形で、実践の場が「コワーキングスペース」と呼ばれるオフィスです。

複数の企業や技術者達がひとつのオフィスを共有するという点は従来のレンタルオフィスやシェアオフィスにも似ています。ただ、物理的な仕事場というよりも利用者間や周囲との交流の場の確保に重点を置くのが特徴で、実務を行うワークスペースの他、会議や交流のスペースを併設するのが一般的。

利用者はそれぞれが独立しながらもスペースを中心としたチームの一員となり、コミュニケーションを取りながら切磋琢磨していく場という意味合いが強いのです。

### ■なぜ今、美波町にコワーキングスペース？

昨年11月の美波町避難訓練ではサテライトオフィス企業と地元企業、教育機関や行政が協力し、IoT技術を利用した減災実証実験が行われました。

この試みは国内だけでなく海外へもニュース配信され、災害に負けない町づくりへの取り組みというだけでなく、地方創生の好例としても注目を集めたのです。

美波町というひとつの場を通して出来た交流から、それぞれの得意分野を活かして地域課題に取り組む協業。そして新たな事業の創出へとこの流れこそがまさにコワーキング。美波町自体が巨大なコワーキングスペースとしての役割を担ったと言ってもいいでしょう。このように町・企業・住民など、みんなが参加し、共に創り上げていくのが美波町の目指す地方創生です。さらに発展させ、地域課題の解決からより良い暮らしにつなげていく施設として整備、設置されたのが「ミナマリラボ」なのです。

今後、「ミナマリラボ」では漁業関係者を中心に、サテライトオフィス企業や教育・研究機関がコワーキングを進め、課題解決や事業創出に取り組む予定です。町の主軸とも言える水産業への新しいアプローチに期待が高まっています。



徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課美波庁舎。



様々な作業台が選べるワークスペース。ワークショップなどにも活用していく予定。

■住宅やオフィスとして利用できそうな物件について、下記まで情報提供をお願いいたします。

役場総務企画課 ☎77-3611

■デュアルスクール制度を使ってお盆やお正月以外のお孫さんの里帰りを実現しませんか？

ご興味ございましたら下記までお問い合わせ下さい。

株式会社あわせ内デュアルスクール事務局 ☎70-5831